

渋沢栄一と各地の“ゆかり”

ご紹介

渋沢栄一翁は日本資本主義の父と呼ばれ、東京商工会議所を設立し初代会頭に就任した他、約500の企業に関わりました。その足跡は日本全国に残っています。

埼玉県 深谷市

深谷は渋沢栄一の生まれ故郷です。1840（天保11）年、現在の深谷市血洗島に生まれました。幼い頃から家業である藍玉の製造・販売、養蚕を手伝い、父・市郎右衛門から学問の手ほどきを受け、7歳になると隣村の尾高惇忠のもとへ論語をはじめとする学問を習いに通いました。23歳までこの地で暮らし、父・市郎右衛門のもとで商才を磨きました。



旧渋沢邸「中の家」

旧渋沢邸「中の家」主屋は、渋沢栄一誕生地に建ち、栄一の妹夫妻によって1895（明治28）年に上棟された建物。渋沢が多忙な中で帰郷した際に滞在し、寝泊まりした場所です。

※「中の家」主屋は2023年春まで改修工事のため囲いで覆われ外観及び内部の見学ができません

北海道 十勝清水町

渋沢栄一は1898（明治31）年、十勝開墾合資会社を設立して開拓事業に着手しました。しかし、交通の不便や寒冷な気候等の悪条件で事業は難渋し、移住者も定着せず会社は存続危機に。それでも創業者である渋沢の十勝開拓にかけた意志はかたく、事業縮小など再建計画を重ね、1907（明治40）年の鉄道開通でようやく収益が出ました。渋沢はその他にも地域の教育や福祉に出資・貢献し現在の清水町の基礎をつくった人物といわれています。

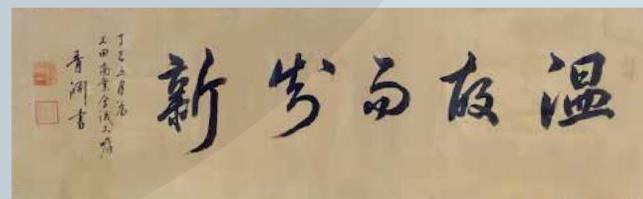


十勝開墾合資会社農場畜舎

1919（大正8）年に建築したこの建物は当時としては理想的な畜舎で、開拓に使用する牛や馬が飼養されていました。建物は現存しており、現在は渋谷農場の牛舎として、1階は畜舎、2階は飼料庫として使用されています。

長野県 上田商工会議所

渋沢栄一は青年時代、父・市郎右衛門や尾高惇忠と共に藍玉行商のため幾度となく信州上田の紺屋（染物屋）を訪れました。その後、1917（大正6）年5月15日（当時：77歳）、講演会で上田地域を訪れた記録が上田商工会議所に残っています。1,500余名が上田劇場に渋沢の「商業道徳」と題する講演に聞き入った後、観水亭で歓迎会が行われたことが、当時の信濃毎日新聞に大きく報じられました。



揮毫『温故而知新』（上田商工会議所所蔵）

1917（大正6）年、渋沢が講演会で上田を訪れた際に、記念に残された書。青年時代の渋沢を知る老婆とも再会し、翌年には飛鳥山邸の藤見の宴にも招いたことが記録に残っています。

挑みつづける、変わらぬ意志で。

東京商工会議所

渋沢栄一と各地の“ゆかり”

ご紹介

渋沢栄一翁は日本資本主義の父と呼ばれ、東京商工会議所を設立し初代会頭に就任した他、約500の企業に関わりました。その足跡は日本全国に残っています。

岡山県 井原市

渋沢栄一は、一橋家の家臣となり農兵を集めるため領地であった備中国の西江原村（現在の岡山県井原市）を訪れました。そこで渋沢は興讓館の館長で儒学者の阪谷朗廬と語り合い、親交を深めていきました。当初は農兵を募るも難渋していましたが、阪谷朗廬との面会以降、領内での渋沢への親近感や信頼感が増し、ついには200人余りの農兵志願者が集まりました。渋沢はこの成功を機に徳川慶喜に認められ、人生の大きな転機を迎えることとなりました。



興讓館

1853(嘉永6)年に地域の子どもを教育するため一橋家が建てた郷校。阪谷朗廬は、初代館長を務めました。開校当時から残る興讓館の校門には、渋沢が揮毫した「興讓館」の扁額が掲げられています。

茨城県 水戸商工会議所

明治維新の思想的原動力となる「尊皇攘夷」を掲げる水戸学に、渋沢栄一も大きく影響を受けたことが知られています。また、渋沢は水戸藩主・徳川斉昭の実子である15代将軍一橋慶喜に、将軍に就く以前より家臣として仕えました。1867(慶応3)年には慶喜の弟で水戸藩主になる昭武に同行し、慶喜の名代としてパリ万博を見学し、先進的な文化に触れたといわれています。1916(大正5)年に水戸を訪問した際には、弘道館の孔子廟を見学し、館内で「感化事業(児童自立支援事業)」についての講演も行いました。



弘道館

旧水戸藩の藩校で、第9代藩主徳川斉昭が推進した藩政改革の重要施策のひとつとして開設されました。渋沢が影響を受けたといわれる「水戸学」の発展の舞台となった場としても知られています。



地域ゆかりの地
特産物産展
渋沢栄一
2022

7月7日(木)〜8日(金)
11:00→18:00

挑みつづける、変わらぬ意志で。

東京商工会議所